☺「福岡市　子どもと本の日」通信　Ｎｏ．１４９　　平成２９年８月２３日

❀　毎月２３日は「福岡市 子どもと本の日」です　❀

～　子どもの読書活動を推進しましょう　～

□　学校図書館担当者連絡会が実施されました

７月３１日（月）福岡市教育センターで，司書教諭や学校司書が参加した学校図書館担当者連絡会が行われました。

連絡会の全体会では，学校指導課から学校における読書活動の推進についての説明，学校図書館支援センターから支援図書や支援内容の説明などがありました。その後，読書活動の活性化に向けた実践発表が，小学校・中学校・高校の３校種でありました。

（小学校の実践発表）

小学校の発表は，「単元活動の中に読書活動を取り入れることで子どもたちの伝記への興味・関心が高まったこと。」や「子ども自身が自分の生き方や考え方が広がった。」という発表でした。中学校の発表は，「生徒の図書委員会の活動の工夫や図書館運営の改善，選書の工夫などを通して，読み上げ冊数が増加したり，図書館での生徒のマナーが改善したりした。」という発表でした。高校の発表は，「図書委員会の活動として，生徒が図書委員会だよりを発行したり，保育園への訪問交流をしたりしたことなど通して生徒を育てている。」という発表でした。

どの校種の発表も，司書教諭の先生と学校司書が，子どもや生徒のために一生懸命取り組んであることや子どもや生徒が活発に活動して学校の読書活動に大きな役割を果たしていることがよく分かる内容でした。

（グループに分かれての分科会）

最後の分科会は，学校司書の配置校毎にグループに分かれ，日常の活動や学習支援や読書活動に向けての工夫について意見交換をしました。

ベテランの司書教諭や学校司書が今の学校の活動だけなく，今までの経験を積極的に話題にしているグループがありました。また，今年の読書週間に向けた取り組みは，他校の実践にあった外国の方に母国語で読み聞かせをしてもらったり，学校図書館支援センターから人形劇を借りて使ってみたりしたいというグループもありました。他校の取り組みを自分の学校に生かそうという参加者の強い意欲が感じられる分科会でした。今年の読書週間は，今まで以上に工夫された取り組みがされると思いました。

Ｈｅｌｌｏ！ 学校図書館

今年度も，福岡市内の小中学校，特別支援学校を訪問し，図書館の様子などを紹介していきます。学校の図書館の運営や環境づくりなどの参考になればと思います。

小呂小中学校

小呂小中学校は，児童生徒数１３名（小学生１０名，中学生３名）の小規模の学校です。図書館がないため，本は廊下に配架してあります。校舎は２階建てで，１階は小学生が，２階は中学生が使っています。

○ 林の中に書架があるような雰囲気

（校舎奥から玄関の方向）

（床が木の板で，柱が丸太です。２階の床を支える斜めの丸太が，幹から枝が伸びているような感じで，林の中にいるような雰囲気を高めています。）

○ 本に興味を持たせる工夫

（ひしゃくと七つの星の話の本を一緒に掲示）

（ｐｏｐで本の紹介）

（みんなが通る廊下に大型絵本を置き，本に興味を持つようにしています）

（「どうぶつのおはなし」や「おもしろいおはなし」などと表示している書架）

９月生まれの文学者たち

中川　李枝子と「ぐりとぐら」

１９３５年９月２９日　北海道札幌市生まれ

中川氏は，札幌市に生まれ，４歳の時に東京の祖父の家に移り、小学校３年まで幼少時を過ごしました。その後一時札幌に疎開しましたが，高校２年の時に再び東京へ戻り，東京都立高等保母学院（現・都立高等保育学院）卒業しました。

卒業後，保育士になりました。保育士として働きながら執筆を続け，１９６２年「いやいやえん」で作家デビューをしました。保育士として１７年間働きました。

「ぐりとぐら」では，森の中で大きな卵を見つけ，その卵でカステラを作るという話があります。この見つけた卵でカステラをつくるという話の展開を，中川氏は，「保育士をしていた時，園児にとってホットケーキがとても大人気でした。そこで，子どもたちに人気があったホットケーキに負けないぐらい子どもたちをあっと驚かせたかったため，当時高級なお菓子だったカステラを森の中で見つけた卵で作るようにしました。」と，言っています。「ぐりとぐら」のシリーズは，累計２４００万部で，たくさんの人から読まれています。

中川氏は，１９８８年公開のアニメ映画「となりのトトロ」のオープニングテーマ「さんぽ」を書きました。また，戦争のため小学校を３回転校した体験をもとに教科書向けに執筆した「くじらぐも」は，小学校１年生の国語教科書に掲載されています。さらに，中川氏の作品の挿絵は，実の妹の画家，山脇小百合（やまわきゆりこ）氏が描いています。

あさの　あつこ　と「バッテリー」

（本名：浅野　敦子）　１９５４年９月１４日　　岡山県美作町生まれ

あさの氏は，岡山県の図書館もない自然の中で生まれ育ちました。自宅にあった小説を読むことを通して，作家になる夢を持ちました。青山大学文学部では児童文学サークルに入り，卒業後は岡山の小学校の講師として２年間働きました。結婚後は医院受付と医院事務をしながら，３人の子どもを育てました。

あさの氏は，末の娘が入園したのを機会に，１９９１年３７歳の時「ほたる館物語」で，作家デビューをしました。はじめて見本の本が届いた時，あさの氏は，本を抱き，部屋中を飛び回り，「これで死んでもいい」と泣いて喜んだそうです。その後，１９９６年に出版された「バッテリー」（全６巻）は，児童文学では異例ののべ１０００万部を超えるベストセラーになりました。

「バッテリー」は，天才ピッチャーとして圧倒的な才能を与えられた少年・原田巧と巧の才能に惚れて野球を続けるキャッチャー・永倉豪の１年間を描いた作品です。「バッテリー」は，その登場人物たちの悩みや葛藤が幅広い層の人々の共感を呼び，人気になりましたが，あさの氏自身は野球の経験がないそうです。

作品にとどまらず，結婚して子どもを育てながらも作家への夢を諦めなかったあさの氏の生き方は，多くの人に感動を与えています。

♪　福岡アジア美術館　「９月の案内」　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

（福岡アジア美術館での読み聞かせ）

＊アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ：（９ 月）

１０日（日），１２日（火），２４日(日)，　２６日（火）

・**時　間**:　１１:３０～１２：００　１３：００～１３：３０

・**場　所**:　７階「キッズコーナー」（申し込み不要）

♪　福岡市総合図書館「９月の案内」　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

＊毎月のお話し会：（９ 月）

２日（土），３日（日），９日（土），１０日（日），１６日（土）
１７日（日），２３日（土），２４日（日），３０日（土）

・**時　間**: 土曜：１４：３０～(幼児向け)
日曜 ：１４：３０～(幼児向け)，１５：１５～(小学生向け)

・**場　所**:「こども図書館　おはなしの家」

□　図　書　館　員　の　ひ み つ の　本　棚　《 No.１３６ 》

福岡市総合図書館 読書相談員の重村さやかさんが，毎月素敵な本を紹介してくださる楽しみなコーナーです。

今回の本は，成長していくバンビの姿を通して，すべての生き物に共通する「生」を描いています。きっと，読者の心の奥にも響いてくる一冊となると思います。

❀ 今月の本

『バンビ　森の，ある一生の物語』
フェーリクス・ザルテン／著　　上田　真而子／訳　　岩波少年文庫
２０１０年　７６０円

♪ あとがき　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

もうすぐ，夏休みが終わります。夏休みの間，子どもたちはいろいろ経験をして，一段とたくましくなり２学期からの学校生活を過ごすことでしょう

さて，子どもたちが夏休みに取り組んだ中に，読書感想文や読書感想画があると思います。ぜひ，読んだ本の紹介をさせたり感想を発表させたりして，２学期からの読書活動につないでほしいと思います。

この通信ではできるだけ色々な学校の読書活動例を紹介したいと思っています。

発　行：　福岡市教育委員会　生涯学習課
電　話：　７１１－４６５５　　ＦＡＸ：　７３３－５５３８

図書館員のひみつの本棚　第136回

今回は皆さんがよくご存じの、でも実は知らない物語です。

『バンビ　森の、ある一生の物語』

フェーリクス・ザルテン／著　上田　真而子／訳　岩波少年文庫　2010年
760円

＜お勧め年齢＞

・乳幼児――　・低学年――　・中学年――　・高学年☆☆　・中学生☆☆☆
・高校 ☆☆☆　・一般 ☆☆☆

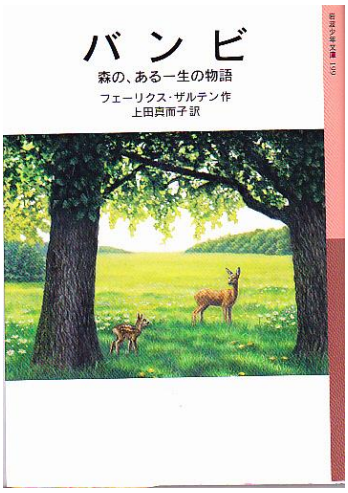
（☆が多い年齢の子どもにお勧めです。）

〈本の紹介〉

一匹の雄鹿バンビが、森で生まれ立派な大人の鹿になるまでの物語。母鹿の死や、雌鹿ファリーネとの出会いと恋、森へやってくる人間への恐怖などを体験し、成長していくバンビの姿を通して、すべての生き物に共通する「生」を描く。ときおり現れるバンビの父親「古老」の「人間を含むすべての生き物は同じである」「一人でいることが生きる意味を知るために重要である」というメッセージは、バンビだけでなく読者の心の奥深くにも響いてくる。

〈子どもに手渡す時のポイント〉

ディズニーの「バンビ」はこの作品の翻案ですが、こちらはかなり骨太な内容で高学年以上が対象となります。大きな事件が次から次に起こるというような展開ではありませんが、読んでいるうちに惹き込まれていく物語です。一度読むと、大人になってもきっと何度となくページをめくることになるでしょう。機会を見つけて子どもたちに紹介してもらえたらと思います。
長らく高橋健二訳で岩波少年文庫から出ていましたが、2010年に今回ご紹介した新訳が出ています。



　このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

総合図書館　重村さやか